

校長先生のあのね帳 1月25日(月) N0143

ある言葉の意味 1

この週末は雨続きということもあり、不要不急の外出を控えたご家庭が多かったのではないかと思います。非常事態宣言が1日でも早く解除されるためにも、今は我慢するところは我慢してできることをしっかりとやり切りたいと強く思いました。

さて、ご家族のみなさん全員が顔を合わせて仲良く話をする様子を表わす言葉に、家族□入らずという慣用句があります。□には漢字の水がはいりますが、**どうして水なのでしょうか。** わからなかったので調べてみました。

まず、この慣用句は内輪の者だけが集まり、他人を交えない状態のことを表現しています。ここでいう「内輪」とは、夫婦・親子・家族・親戚・仲間などのとても親しい関係のことを言います。親子水入らず 夫婦水入らず 家族水入らずのように関係を表す言葉と共に使います。

次に、**家族水入らずの水はもともと油の意味**だったそうです。「水と油の関係」から生まれたらしいです。

水と油は一つの容器に入れても、上に油・下に水と分離します。また油だけ集まった状態に一滴水を垂らすと、水は弾かれてしまいます。そこから仲が悪い関係のことを、「水と油」というようになりました。親しい者同士が集まっている時に、無関係の者が混ざれば邪魔者扱いされてしまいます。**親しい間柄の人を「油」に、無関係の者を「水」にたとえたのが「水入らず」というわけです。**

水という漢字は一年生で習います。画数も少なく覚えやすい漢字の一つです。私たちの生活の様子や行動を表現する言葉、慣用句などにもよく出てくる漢字です。**漢字としての姿はシンプルでも意味は深いな**と思いました。

わかったようで実は浅い意味づけだったり、誤った意味に理解したりしている表現は他にもないでしょうか。

(この続きは次号で。)